

- 7 **夏野釣り全開！ 芦ノ湖&河口湖**
 ●生井澤 聡 in 芦ノ湖 今シーズン最重要湖で豪快に釣りまくる！
 ●NEO-HERA INVITATIONAL in 芦ノ湖
 孤高の野釣り5枚リミット制巨べらトーナメント2004第2戦はとんでもないことに！
 ●棚網 久の夏野釣り全開レポート NEO-HERAその後+河口湖！
- 129 **3カ月連続 夏の緊急特別企画 桜井吞舟 オカメ釣りの真髓Ⅱ**

COLOR (カラー)

- 27 名手・石井旭舟がいく、へら鮒出合い旅… へらぶな浪漫街道
 《第二十回》遙かなり鹿野川湖——。
- 33 戦い続ける男、浅草へら鮒会、年間タイトルへの挑戦。小池忠教 激闘の軌跡
 《第5戦》6月例会：西湖・精進湖
- 40 **マルキューチョーチン王座決定戦**
- 42 **バリバスカップへらトーナメント2004**
- 44 **ダイワペアバトル2004**
- 46 **シマノ浅ダナチョウチン一本勝負!!**
- 48 **HERA-1GP全国へらブナ釣り選手権大会**
- 118,146 原始釣人・稲毛利夫&賞果釣人・モロちゃんの純野釣り探求記!
アタリをちょーだい!!
 (Vol.7) だるま池/無名の池/長登呂沼/天皇沼/亀の甲田地の沼/水穴の沼(埼玉県東松山市)
- 120 竹とともに生きる。
 《第12回》「影舟」作者 山本良行
- 123 杉山達也の**SPLASH BEATⅢ**
 《Vol.5》日曜日、超満員のスーパータフを攻略せよ。
 杉山達也、間瀬湖に見参!
- 134 田辺哲男の「それってどーゆーことよ!」
 《Vol.19》【ザ・ショルダー】
 西田一知登場! 深田両ダングin円良田湖!
- 138 熱血釣り女・吉川ひとみがいっく! 「へらってヤバイわっ!!」
 《第26回》雨女復活!? 豪雨の三島湖でがんばる!
- 142 西日本川釣り紀行 北川穂積
 《第20回》吉井川(岡山県)
- 177 戸張誠 野釣り道場
 《第4回》【西湖・桑留比の藻面】
- 183 岡田 清 Deep Side Angle
 《Vol.11》【スーパーナチュラル・バイトⅡ】椎の木湖
- 189 **新連載** 本音で語るへら用品インプレッション。へらアイテムメッタ斬り!
 ○【アスカ】(株)がまかつ
- 190 **新連載** 編集部が独断と偏見で選ぶナイスなお店 釣りの帰りに寄りたのお店
 《file.2》【ボン・ピアット!】のバスタ&ピッツァ(埼玉県寄居町)
- 192 **フィッシングレディ**
 《今月のレディ》瀬楽記志子さん 野田幸手園(千葉県)

MONOCHROME (モノクロ)

- 49 **★エリアレポート**
- 50 月形皆楽公園の池(北海道) 竹田正行
- 51 五位ダム(富山県) 山本一朗
- 52 風越池(愛知県) 後藤 誠
- 53 水藻FC(大阪府) 前田誠志
- 54 豊田湖(山口県) 河口正伸
- 58 あらいしのぶの始めてみようよ、へら鮒釣り
 《第16回》つ、つ、ついにエサです…その1
- 62 トーナメンター小林恭之が挑む! 竿頭までぶつ飛ばせ!!
 《第8回》HERA-1GP全国へらブナ釣り選手権大会
- 66 **NHCスピリット**
 《Vol.11》最強女性アングラー佐々木近恵 in 隼人大池
- 73 江成公隆のトーナメンター、復活への道。
 《Vol.26》最終回!?
- 82 **そんなモジリにダマされて…** 天野正由
 《その8》梅雨前線停滞ス 白樺湖
- 88 **水辺のプラネタリウム** 吉本亜土
 《今月の星空》「砂漠の水辺3」
- 93 **元気が出るへら鮒** 西田美明
 《第20回》「試釣は楽しい」の巻
 ※「佐原水郷の四季」「あなたの夢を叶えます」「釣りクラブ見参!」は誌面の都合で休ませていただきます
- 98 **最狂へら戦士養成所“鮒の穴”** 高橋謙司
 緊急企画 鮒の穴タカハシ、謎の緊急入院の真相を追え!!
- 102 **野田幸手園新聞**
- 104 **ワクワク管理釣り場情報**
- 108 **小売店情報**
- 150 竹竿&合成竿で未開の釣り場を楽しむ! **オデコバンザイ!?**
 《その8》千波湖&セツ洞公園の池(茨城県水戸市)
- ★へら鮒BOX**
- 155 里ちゃんの新米編集長雑記
- 156 マルキューモニター懇親会
- 158 情報発信基地
- 160 ボイス
- 166 コラム『夢中と書いて夢の中』伝道師P
- 167 『日研だより』日研広報部長・遠藤克巳
- 168 『へら狂おやじと呼ばないで』白石和弘
- 170 G杯地区予選/NHCへらぶなトーナメント
- 172 釣果予想クイズ
- 174 プレゼント発表
- 175 広告索引
- 176 編集後記



●今月の表紙●
angler: 田辺哲男
field: 芦ノ湖
photo: 本誌・田中里史
layout: 本誌・田中里史

STAFF

- Producer
根本百合子
- Editor in chief
田中里史
- Editor
大場勝良
諸富一秋
伊藤小百合
伊藤洋一
- Planner
〈オフィス・えぶ〉
藤原 肇

この物語は、
栄光、そして挫折を味わい、
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

江成公隆の

トーナメント、 復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka
業界初、Web運動企画！ (URL) <http://hesar.yokohamatsurumi.net>

「一歩進んで二歩下がる!?!」

〈Vol.26〉

最終回!?

先月号で里は、江成のことを「タダの人」と呼んだ。言い過ぎたような気もしていたが、江成本人は小柳氏*のホームページの掲示板で自らのハンドルネームに選ぶなど、ノリノリであった。しかし、かなりの抗議があったのも事実。覚悟していた苦の抗議だったが、今回ばかりは軽率だったと反省している部分もあるので詳しく書いてみたい。まず代表的なのは、「結果が出ていないとはいえ、タダの人はなんじゃやないか?」というものだ。これは予想していたものであり、事実その通りだと思う。予想していなかったのは、人気急上昇中のNHCC参加選手達からの激しい抗議だった。江成は昨年度の総合ランキング2位という立派な成績を収め、「ヘラワールド」認定フロになった。「結果は出ていた」のだ。にもかかわらず「タダの人」とはどういう事だ?」と。熱心な参加選手達にとっては、江成も岡田清や杉山達也らと共に憧れのスターであったのだ。

里は江成のことを「現在はまだ釣りえないために「タダの人」と変わりないと書いたが、「下手」とも「上手くない」とも書いていない。過去に本連載に掲載された里のセリフで、「真の読者企画ではない」というのがあるのを記憶だろうか。構想段階でのこの企画のメインテーマはもちろん、「ある釣り人のトーナメントへの挑戦」だった。これだけなら冗談抜きで全くの無名、全くの初心者でも構わなかったし、その方がリアリティはあっただろう。しかし里には長い間温めていた、ある別のテーマがあった。それは「人間」「釣りの内容」よりも、「釣り人の内面」にスポットを当ててみたいというのだ。と。「こうやって釣りました」とか「こうやって釣れました」という記事ではなく、「釣りたい・でも釣れない」「釣りに行きたい・でも行けない・でも勝ちたい」という、おそらく多くの読者の方が抱えている葛藤であり、里自身の葛藤でもあるこの気持ちをテーマに据えた記事を、読んでみたかったのである。

だが実際問題として「釣り」の話だけで終わらせず、「人間」までも描き出せる人物となるとそうはいかない。人選は困難を極めた。やがて月日は流れ、締め切りが迫られる里の頭からは、企画そのものが消えかかっていた…。しかし、バックナンバーをバラバラとやってきたある日、里の目に江成の名前がとまる。この日の確信はやがて現実のものとなり、こうして読者の皆さんに毎月お届け出来る喜びを感じずにはいられない。が、ひとつだけ誤算があった。江成の「釣りの内容」部分の原稿が、里の想像を遥かに超えていたという事だ。

ある意味江成をナメていた里にとって、北城錦氏とのコラボレーションによって実現した「底釣りゼミ」は、それはそれは「事件」だった。あの記事が、「しばらく釣りから離れていた」・「現在はまだ釣りえない」釣り人によって書かれてしまったものなのか? 我々フロの書き手は今までいっただい何をやってたのか? : それくらいエポックメイキングな出来事だったのだ。特に「底釣りゼミ」復習ノート」で江成の連載に初めて触れた読者なら、それがフロの書き手ではない月イチ釣り師によって書かれたとは信じ難かったのではないだろうか。確かにその内容は最新釣技でもなんでもなく、ベタベタなまでに基本を追求するだけの記事。だが今まで誰一人としてその根本に触れてこなかったのである。いたずらに流行を追わず、王道で底釣りと対峙した江成の「底釣りゼミ」は、すでに一年以上が経過した現在でも間違いなく、史上最高の「底釣り記事」だと思っ。いや、これ以上の記事はもう出てこないかも知れない。もしまだ読んでいない方がいたら、ご友人に借りても読んで欲しい。必読である。

江成が紡ぎ出す物語には、一見回りくどいように見えて、その実一気に読ませしてしまう気迫がある。それは江成の「熱さ」に他ならない。「今回だけページを増やしてくれ」などと言ってくる人物は、江成以外に記憶にない。

サイズに換算すれば、毎月およそ10〜15ページ分もの原稿になる。それだけのボリュームをそうそう読ませられるものではない。そう考えると、江成の熱さのせいだけではいけないのかもしれない。では江成の文章術のせいなのか? いや、それも正解ではないだろう。常々感じていることだが、江成は「釣り」への考察が「深い」のだ。「ヘラ鮎」は、ヘラ釣りの専門誌。どんなに巧みな文章であったとしても、「釣り」の描写が陳腐であれば誰も読まないものである。考えてみれば、基本の探究に終始した「底釣りゼミ」においても、それ以上の知識がなければ書ける筈がないのだ。

「上手い」と「よく釣る」とは違う、と里は思っている。状況判断が甘く、何も考えないまま打つ投も多い現在の江成を「上手い」とは言いにくい、かといって「下手」であるとも思わない。ならば「よく釣る」のではない以上やはり「上手い」ということになるのだろうか? : そう、「たくさん釣れなかったって上手い」人は存在するのだ。「釣りをよく知っている人」と言い換えた方が適切な表現かもしれない(あつ! 先月号で(株)フジノラインの兼松氏が言っていたことぢやないか!!)。では改めて現在の江成は釣果的には「タダの人」だが「釣りをよく知っている人」である、と訂正したい。江成のNHCCでの活躍についてもコメントしておこう。昨年の江成の成績は「フロックでない」、と里は断言する。ただ現行の5枚リミット制が、ヘラ釣り新規参入者だけではなく江成にも有利に働いていたのは事実だろう。つまり量目ではなく5枚リミットでなら、判断のミスも遅れもリカバリー出来る余地が多少は残されているというところ。そして、「大型を揃える」という行為が、実は連打だけでなく綿密な作戦と実行が必要なのだという事実…。やや頭でっかち気味(?)の現在の江成にとっては、まさにドンビシヤなルールなのだ。

さて、今月の江成の原稿がパソコンに届いたようだ。どれどれ:

by 里ちゃん

*マルキューフィールドテスターの小柳康秀氏。今期はG杯予選を通過済み!
氏の運営するホームページへは、<http://www.fides.dti.ne.jp/~yasuhide/>

お詫び。

まず最初に先月号の訂正から。一度もお話したことがない茂木氏の名前を断わりもなく出しておきながら、いきなり間違いを書いてしまった。氏はバリバスの予選は通過していなかったのだ。こんなマイナス修正で本当に申し訳なく感じる。

「茂木氏ご本人はじめ、関係者の皆様に御迷惑をおかけしましたことを、心よりお詫び致します」

言い訳させてもらって、氏は「そう勘違いしてしまっくら日立って」おり、当然通過したものだと感じさせられたのだ。ちなみに現時点で氏が今期予選通過しているのはG杯とHERA—1GPPで、シモノJCはシードである。

他人のミスを論じている場合ではなかったのだ。というより、里ちゃんも気付けよ！*
【里ちゃん註：*先月号参照 *ひとのせいじゃないっ！】

三枚のカード。

5月30日(日)。この日はNHCC第二戦が隼人大池で行われる日だった。数日前まで当然参加するつもりでいたのだが、僕は欠席した。前々日の晩、「そんなお金はない」と女房に通告されてしまったからだ。5月は大きな買い物をした記憶がなかった僕は、すぐには納得出来なかった。女房にそう告げると呆れた顔で、5月はすでに2回も(G杯とNHCC第一戦)遠くまで釣りに行っている事、新たに保育園の出費が発生した事、そして僕の減給……。こんなと我が家の財政状況を話してくれた。

だが、「行くな」とは決して言わなかった。

気持ちよく釣りに行かせてもらえよう、もちろん僕は食い下がった。5月はたまたまトーナメントが集中しただけであって、これから毎月というわけではないこと。さらに、先月号に書いたように応援してくれている読者もいる事や、全戦出ないと意味がないことも説明した(実際は一回だけならシステム上休んでも問題ないのだが*)。しかし女房に言わせれば、「男のロマンも大義も、あたしには何の関係もありません」なのだ。女房には響かなかったか……。この時点で女房の真意が分からなかった僕は、猛烈に頭にきた。しかし「へら釣りは遊び。自分の使えるお金の中でやりくりしなければならぬ」と、自分でも書いてしまっていた。打ち止めなら仕方ない。

金のない奴には遊ぶ資格がないということだ。NHCC前日の夕方、仕事中にNHCC事務局に欠席の連絡を入れた。さすがに「お金がないので」とは言えない。当たり障りなく「用事が出来まして」と、説明した。実際、本当に用事はあった。それは町内会の「廃品回収」だ。やった事がある人ならお分かりいただけると思うが、実はコレ、かなりの重労働である。役員には年輩者が多いため、正直な話かなり不人気なイベント。役員の中では若い部類の僕は必ずアテにされる。

「運動会はバックレちゃったし、今回は仕方ねえな……」
それでも腹が決まったのは事務局へ電話を入れた後のことだった。
「今晚は喧嘩しないようにしよう」と
そう思っただけで帰宅した僕を待っていたのは、廃品回収さえも否定する女房だった。独りで遊びに行くんじゃない、ボランティアじゃないか！しかし、いくら鈍い僕でも「きつと何かあるに違いない」と感じるまでにさほど時間はかからなかった。

女房が提示した日曜日の使い方。それはデ

パートの「仮面ライダーショー」だった。廃品回収を蹴飛ばして仮面ライダー!?

「それは優先順位が違うんじゃないのか? 確かにソレも金がかかぬえけどよオ……」

女房は僕の言葉にブチ切れ、そして泣き出してしまった……。

【里ちゃん註：*今期のNHCCでは、6戦中成績のよい5戦の成績で競うシステムになった。第二戦を休んだ江成は、捨てられる試合がないという事になる。第一戦での成績が芳しくなかった江成は厳しい状況に立たされている】

家族会議。

「公」と「私」。節度ある人間として生きていと願うなら、常に意識する苦の言葉だが、時にはうっかり自分の都合だけを通してしまふ事もある。

僕の場合、後になって恥ずかしい思いをしたり、反省したりするケースはとても多い。そんな僕でも、こと家族の事となると、自分の都合を押し通そうとはしてこなかったような気がする。

「いいパパ」や「愛妻家」という言葉は最近でこそ褒め言葉として使われているようだが、長らく「冷やかし」としての意味合いが強かったと僕は認識している。そしてそこには、日本人の美学があると理解していた。その美学とは、「自己犠牲の精神」に他ならない。社会性の高いイベントが発生すれば、自己を犠牲にしても「公」のために行動する。時代によって、それは「戦争」であったり「仕事」であったりする訳だが、「私(自己)」を犠牲にするにはそれなりの葛藤があるだろう。

第二次大戦中の日本兵の事を、欧米諸国は「クレイジー」だったと言っ。僕が義務教育で習った歴史でも、カミカゼのパイロットは

「洗脳」によって「死」を怖れないようになっていたと教わった。が、そんな善はないのだ。

僕の親父は戦争中に小学生だった。子供の話はアテにならないと言われ、法律上でもあまり重用視されないが、聞いてみる価値はある。小学生は多感な時期である。大人がとすれば見落としてしまっような些細な事を、いつまでも覚えてくるのだ。僕は自分がやはり小学生の時、親父から戦争体験を聞かされた。まず聞いてみたのは、「みんながみんな戦争が好きだったの?」という質問。もちろん答えはノーだった。国際紛争を解決する上で「戦争」という手段を選んだしまった当時の政府に対し、大人達は賛否両論であった事も、皆最後は負けるだろうと思っていた事も語ってくれた。さすがに大きな声で論ずる事は出来ない空気があったかも知れないが、大人達は考える事を放棄していたわけではなかった。

もうひとつ興味深い事を聞いた。広島への原爆投下とその甚大な被害は、翌日には神奈川の小学生の耳に届いていたのだ。ラジオニュースでも報道されず、テレビなど無かった時代の話である。もちろん「原爆」という言葉ではなかった。しかし「新型爆弾」という言葉で伝わっていたのだ。これをどう見るか。政府による情報規制など不可能という事にならないか? だとすれば、国民全てを洗脳し行為もあつたのかも知れないが、行為を受けた者全てが完全に洗脳されたとも思えない。ではなぜ、多くの若者が戦争で死ねたのか? 命令だから? 上官が怖かったから? 国体護持? そんな理由ではない筈だ。彼らが守ろうとしたもの、それは日本の高い「社会性」だったのだろうと僕は思う。「自分の家族」はどうでもいいのか? と思う方もいるかもしれない。そんな善も無い。「関係性」の中で生きているという自覚があったればこそ、彼らを守ろうとした「社会性」の中に「自分の家族」

も見て出せたのだ。「不特定多数の誰かのために」、「誰かがやらなければならぬなら自分がやる」という奉仕の精神は、実は「自分のため」という意味合いも包括しているのだ。「情けはひとのためならず」という言葉と全く同じ意味である。だからこそ「やれる」のであり、この「仕組み」が現在は失われてしまった日本の秩序を築き上げたのだと思う。戦後復興期・高度経済成長期の日本を支えたのもまさしくこの精神。中心となった僕の親父のような「戦時中に子供だった世代」達は、その精神を失わずに今日の日本の繁栄を築いた。

「モーレッツ社員」は繁栄を築いたが、同時に弊害も生んだ。都市部への人口集中と、それに伴う地方の過疎化。核家族化も急速に進み、関係性を確認すべき最初のステップであるところの「親子」が、あまり顔を合わせられないという事態が起きた。「日本型社会秩序構築システム」崩壊の始まりである。

「モーレッツ社員」の中には、本気で仕事を愛してしまっただけかもしれないが、皆がそうだった訳ではないと思う。右肩上がりの成長期、休む暇がない程忙しかったろうが、多くの者は休日出勤の度に家で待つ家族の顔を思い浮かべていた筈だ。それでも出社しない訳にはいかなかった。そこまで頑張ってしまったのはなぜだろう。会社のため？ 自分出世のため？ …色々あると思うが、結局は「自分の家族のため」というところに帰結する。しかしすでに崩壊が始まっていた「日本型社会秩序構築システム」の中では、残念ながら家族には通じなかった。そんな事を知る由もない「モーレッツ社員」達は、彼らが受け継いだ「日本人の美学」のために、職場では「自分や自分の家族のことなど二の次」という空気を作ってしまう。そしてこの空気は、休みたたくても休みづらい状況下でお互いを牽制するために利用され、システム崩壊に拍車

をかけた。「いいパパ」や「愛妻家」という言葉に「冷やかし」をイメージしてしまうのは、すでに「モーレッツ」という言葉は下火になっていたとはいえ二度のオイルショックも乗り越え、まだ高度成長の名残りが残る70年代を僕が生きた証である。もちろん「子供」として。

現在は反動の時代。法の整備も進み、「家族」や「ゆとり」が、「仕事」より大事だという認識が広く一般的になった。しかしあくまでも「認識」だけで、「状況」は何も変わっていない。短くなった昔の労働時間もタイムカードの改竄でどうにでもなるものだし、休日はタイムカードの打刻さえしないうまま出勤という可能性もある。業種や職種によっては、「そんな違法行為とは無縁だ」という人もいるかもしれない。不景気で残業も休日出勤もないという人もいるかもしれない。だが、忙しさと景気は比例しない面もある。ダンピングが進んだ結果「数」をこなさなければ利益が確保出来なかったり、不景気だからこそ休日も返上で営業に駆けずり回ったり…。そんなことよりもっと問題なのは、「本質」も全く変わっていないということだ。崩壊しきったシステムは、もはや再生不可能なところまで来ている。犯罪の増加もとどまるところを知らない。

で、僕の話。仕事はもろろん家族のため。町内会も家族のためになると思っただけのこと。では「釣り」は？ …釣りはもちろん自分が楽しむためだ。連載は里ちゃんのため？ 読者の皆さんのため？ …いや、やはり「自分のため」に過ぎないのだと思う。もう少し詳しく書くと、「息子が大きくなった時、もしこれを読んだらどう思うだろう」という楽しみがあった。事実そういう前提で書いた月もある。いかにも子供思いの父親のようだが、結局はただの自己満足だったと気付いた。誰にでも一つくらいは息抜きがあってもいい。

い。当然、僕にもだ。休日に独りで抜け出す僕にとつて、「連載」は罪悪感を打ち消す恰好の大義名分となった。しかしまだ三歳児の息子には響かない。「お仕事」の意味もよく分からない彼にとつて重要なのは、「今」そばにいて遊んでくれるかどうか。これだけなのだ。思えば僕も、親父に悲しい顔をさせたことがある。「どうして日曜日にごつか連れてくれないの？」と。その時、僕はすでに小学生だった。しかも親父は自分の息抜きではなく、仕事で留守がちだったのだ。

その人の就いている職種や業種、その人の経済状況によって自由になる時間の量には差があるだろう。しかし学校や幼稚園に通う子供と共有出来る時間は、誰でも僅かしかない上に、それを僕独りで使ってしまったらどうなるか？ これが女房の涙の意味である。

「文句を言わずに釣りに送り出してくれる妻」は、長らく僕の理想であったし、友人の話も聞く度に羨ましいと思ってきた。しかし今回の事態の深刻さに気付けなかった僕は、文句を言う女房で良かったと思っただけ。なぜなら「鈍感」な僕には、諦められているのか、それとも本当に文句がないのか分からなかったらう…。

僕の中に都合良く存在する「日本人の美学」は、しばらく封印せざるを得ない。今もっとも僕を必要としているのは、職場でも地域社会でも友人でも女房でも、そしてもちろん読者の皆さんでもなく、三歳児の息子なのだ。



減給は職場の仲間全員残らずだった。原因はコンピュータの入力ミス。いや厳密に言うとなんか評価の入力漏れで、自動的に0点とい

競技派からのんびり派まで、すべての釣り人に使って欲しい…

へら浮子
杉山作

浅ダナスタイル
【パートⅠ・パートⅡ・ワイド・ムク】
(各1本4,500円)

フリースタイル
深宙スタイル
(各1本5,000円)



取り扱い店〈五十音順〉

埼玉・越谷 かわせみ (☎048-969-5067) 茨城・下妻 こやの釣具 (☎0296-44-1619) 東京・渋谷 サンスイ川釣り館 (☎03-3499-5025)
埼玉・入間 三水堂つり具店 (☎042-964-2093) 栃木・益子 フィッシングハウスほその (☎0285-72-2215) 神奈川・川崎 鮎仙人 (☎044-287-7470)
東京・吉祥寺 丸勝 (☎0422-22-8923) 東京・青梅 吉川釣具店 (☎0428-22-2467)

う評価となった。「そんなのアリ?」…今期の給与を決定する昨年度上半期の査定時期に、大規模な組織改革があった。それに伴う混乱の中、上司もめまぐるしく変わった。そんな理由で当時の責任の所在が曖昧になっている。僕の所属する組合支部の委員長も「今さらどうしようもない」と、とりあつてくれない。「マジですか?」。即答されては、労組と会社がグルになつての組織的な陰謀という気さえしてくる。今期一年間はこの査定がベースとなつて、給料もボーナスも支給されるといふのに。しかも現状維持ではないから、一年の足踏みではないのだ。

昨年を振り返ると、人員が減り昼飯も食えないほど忙しい時期もあった。年間所定総労働時間も軽く突破した。僕の仕事に対するスタンスは「時間の切り売り」だが、その時間内は「会社のために」頑張つたつもりだ。もちろん定時になれば「ハイ、さよなら」と言えるわけもなく、「売る」のではなく「無償提供」した時間も膨大である。にもかかわらずこの仕打ちでは、全てが馬鹿馬鹿しく感じてくる。今回の事件が故意なのか、そうでないのかは闇の中だが、金銭的な面で見れば得をしたのは会社側だけだ。しかし社員のやる気を奪つたという点を考えれば、長期的な会社の損失は計りしれない。「俺は戦つ」。

今回の事件では、さすがに「転職」という言葉が頭をかすめた。しかし高卒で何の資格もスキルもない僕にとって、一生このまま今の会社にブラ下がつて行くしか道はない。全ては自分の責任である。「他人の庭はよく見える」という言葉がある。今回もそう思つて我慢することしよう。というより、それは真実だとも思う。人には「慣れ」というものがある以上、どんな立場に立つたところで完全に満たされることはないのだ。と、こんな事を書くところかの宗教団体から誘いが来そうだが、ノーサンキューだと言つておく。僕は

宗教には関心がない。ウチの近所にある宗教団体の事務所があるが、夜な夜な集まつてくる熱心な信者達のフアッションや高級車を見た僕は、「絶対に悟りは開けない、欲は捨てられない」と悟つた。

欲は捨てられない。しかし上を見てみてもキリがない。こういう場合、「他人は他人、自分は自分」という言葉も使われる。この言葉は、人が大人になつていく過程で自分を諫めるおまじないの一つであり、僕が子供の頃は悪い意味で使われることはほとんどなかった。しかし、最近ではクールな印象の方が強い言葉になつたと感じる。「関係性」を見失つた現代人にとつて、他人の厳しい状況には無関心である。これを表す際に、「他人は他人、自分は自分」という言葉が使われるケースが出てきたのだ。

息子が通うのが幼稚園ではなく保育園というのは、女房が働きに出るのを見越しての選択だった。息子が生まれる時、前職を辞めさせたのは自分である。産休という手もあったが、「小さいうちは、そばにいてやつてくれ」という僕のワガママを通した。その結果、我が家の収入は当然減つた。覚悟していたはずだったが、小遣いが減るのを受け入れられない僕の馬鹿ぶり…。それを見かねた女房の選択だった。

仮面ライダーショーのあと、変身ベルトと武器をねだられた。「お約束」である。とくに入園祝いというものをあげていなかった僕は、買ってやつてもいいかと思つた。軽い気持ちでオモチャ売り場に着き、目玉が飛び出した。何と二つで一万円を軽くオーバーするのだ。僕のサイフに入つていた僅かな夏目漱石では到底足りない。「困つたな」と思つていると、女房は僕のポケットにこっそりと二万円を入れてくれた…。

家計にノータッチだった僕は、お金が全く無い訳ではない事にちょっと安心した。一瞬、

「NHCCも行けたじゃんかよー」とも思つたが、その言葉は飲み込んだ。お金の使い方の問題だからだ。僕一人で使う予算はもうないが、家族で使う二万円ならあるという事なのだ。



保育園のPTAの集まりに出席した女房が、一部の保護者達の自己中なコメントに腹を立てて帰ってきた。そのコメントをここで詳しくは書かないが、共通するのは保育園を「サービス業」と認識しているという点だった。保護者はお金を払つている「お客」という感覚なのだ。確かにそこで働き、毎月の収入を得ている人はいる。保育園もビジネスということになるのかもしれない。しかし少子化の時代、経営も楽ではないはずだ。ボランティア精神がなければ出来ない仕事ではないだろうか…。

保育園はその性格上、保護者には働く母親が多い。忙しいのは分かるが、皆が自分の都合を通せる訳がない。集団行動である以上、子供だけではなく親にもある程度の我慢や妥協が必要になる。多くの子供達にとつて、組織に入るのははじめての経験だろう。大人への階段の第一ステップだ。そんな貴重な時期、アホな親と一緒に暮らす子供は不憫だ。

入園以来、一度も休まず元気に通つていた息子が、先日「行きたくない」と言い出した。理由を聞いてみると、どうやら給食を時間内に食べ切れていないらしいことが分かった。他の園ではどうだか知らないが、息子の通う園では時間内で食べ切れない子は、そこで打ち切りになるルール。時間になれば、給食を下げられてしまうのだ。好き嫌いの多い子には最高のルールだが、そこまでの知恵のある子はまだまだ多くないかもしれない。僕に似て好

物を後回しにする息子にとつて、これはショックなルールだろう。「好きなものを先に食べてごらん」と言つても、なかなか理解してもらえない。これは困つたことになった。ここで自分の子供がかわいあまり「食べ物粗末にするのは如何なものか?」と、良識ぶつて園にクレームをつけることは簡単だ。実際にこのルールには賛否両論あるだろう。しかし、それはやつてはいけな行爲だ。その気になれば入園前から知ることは可能であったし、その場にはその場のルールというものがある。それを守れなければ、子供達はこれから先の長い人生を歩いて行ける苦がない。

どんな仕事でも「お客」がいてはじめて「利益」が得られる。つまりどんな仕事でも「商売」であり、「サービス業」なのだ。僕はそういう広義ではなく、日々直にお客様と接する純粋な「サービス業」と呼ばれる職に就いている。無理な要求をしてくるお客や、「クレマー」と呼ばれる人達に遭遇する度に、考えさせられるテーマがある。それは「お客様は神様か?」というものだ。会社はもろろん「イエス」と言うが、僕は疑問に感じる。もっとも僕がプロのサービス業従事者になれていないのかもしれないが、「お客様は神様」という言葉は客側にも節度があった時代の言葉だと、僕は思う。何度も書くが、「関係性」の中で生きているという意識の希薄さが、相手に対する「思いやり」を欠如させてしまった。自分の身に置き換えてみるという作業がない。とくに一度しか会わないような相手に対しては、プレーキが効かない。妥協や譲歩は一切なく、彼らが要求してくるのはいつも「100:0」である。

「客は何をやつてもいい」という意識は間違いだと思つた。そこまで権利を主張できる脳味噌があるのなら、受けようとするサービスのコスト、利益、時間当たりの生産性などもおおよその見当がつく筈だ。それで赤字になる

釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

- ・仕上がりは黒一色です
- ・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

1. ぐりへの釣会
2. ぐりへの釣会
3. ぐりへら釣会

- ・番付をインターネットで公開できます(無料)

お問い合わせご注文はお早めに!

取扱店: 柴舟 03-3613-2727

ウキや小物の銘入れに 転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～
2回目以降同じものをご注文の場合は3,500円～

- ・8書体、8色を御用意しています
- ・角印も作れます

取扱店:

柴舟(東京都江戸川区)
03-3613-2727
佐伯釣具店(神奈川県川崎市)
044-911-3722
SANSUI川づり館(東京都渋谷区)
03-3499-5025
フィッシング中原(神奈川県川崎市)
044-711-8266
鮒仙人(神奈川県川崎市)
044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店
または下記HPまでどうぞ

office27
あとりえぐり

http://www.office27.com
E-mail: info@office27.com

と思えば、そのビジネスは成立しない。要求する方が間違いないのだ。例えばオフィス街の格安の食堂、昼の休み時間。おそらく長蛇の列だろう。ここで「待たされて腹が立つ」からといってクレームをつける者はいない。食べ終わった後、「不味い」とクレームをつける者もいないだろう。そういう事なのだ。自分の都合に合わせて子供を預けたいのなら、それなりの対価を支払ってベビーシッターでも雇えばいい。それが出来ないのなら、文句を言っただけならいいのだ。

「お互い様」という言葉がある。「思いやり」の欠如した現代人は、この言葉をどう捉えているのだろうか。クールに割り合いだけで「フイティフイティ」と受け止めているのだろうか? だとしたらそれは危ない。相手と自分の「フイティフイティ」には誤差があるからだ。「四分六」位で負けておく。そういう気持ちでないと、疲れるだけだ。潤滑油が乏しい社会、せめて自分だけでも潤滑油になればいいじゃないか、と思いたい。ただ、こちらのそういうスタンスを見抜いてつけ込んでくる馬鹿もいる。相手に見返りを求め過ぎないようにしていても、やがて溜まってくるストレス……おっと間違えた。こういう話をしようと思っただけではなかった。そ

うではなくて、「お互い様」に「いいことも悪いことも巡り巡って自分に還ってきますよ」という意味を見出しませう、ということなのだ。「明日は我が身」という言葉はあまりいい意味では使われないが、常日頃からそういう緊張感を維持しましよつと云うことだ。以前おもしろいことがあった。あるクレーマーと街で偶然出会ったのだ。そのクレーマーは僕が買い物をした店の店員だったが、僕は仕返しはしなかった。繰り返しても意味がないからだ。

驚くべきは、彼もサービス業に就いていたということだった。僕と同じようなストレスが溜まっていたのだろう。同情できる。ただ、彼はストレスの誘惑に勝てず、ストレスの連鎖を断ち切ることが出来なかっただけなのだ。だがこの日の僕には出来た。僕の「勝ち」である。

…さて、またしても「人間」の話に終始した今月の江成は、皆さんにとつていかがだったでしょうか? 冒頭に里が用意したコメントを見事に裏切り、「釣り」の話は皆無でした。でも、里は読み終えてブツ飛んじやいました。言葉になりません…。

とりあえず江成と江成のご家族を追い込んで

でしまったという罪悪感だけははっきりと自覚しています。読み終えた里は慌てて江成に電話を入れましたが、江成は飄々としていて「半分冗談だから」と、こちらの謝罪に耳を貸してくれません。今まで書いてきた「江成家、家庭崩壊」っていうのは里にとっては冗談のつもりだったんですよ。でも今月号を読むと「ホントはどうだったの?」っていう気がしてきます。でもまあ、記事の中の江成は反省して釣りに行かなかった訳で(G杯以降、江成は一度も釣りに行っていない)、家庭崩壊の危機は脱したんじゃないかと思うんですが…。それに、記事に出来るくらいなんで大した事はないと信じたいです…。

さて、来月からどうしよう…。人としてこれ以上江成に負担をかけたくないし、一ファンとしてはもっともって頑張って欲しい。そして何より編集長としては、人気のページを失うわけにはいかない…。さあ困った。あつ、とりあえず今月のタイトル「最終回?」を見てびびくりした方、ご安心ください。まだまだ続きますので。

江成よ、とりあえず次の取材までは、無理をせずにゆっくり休んでくれ…。あ、江成の奥様、取材一度くらいはご主人をお借りして

もよろしいでしょうか?

by 里ちん

わたくし江成の独断で、チーム「自作自演」ホームページを開設しました。原稿の締めきりもあるので製作中断してありますが、そのうちやります。簡単に説明しておきますと、「自作ウキの紹介をするホームページを置く場所を提供するサービス」を始めます。独りでやるよりアクセスも見込めるので、お小遣い稼ぎをしたい人にはいいかもしれません。もちろん許可しようと思ってます。純粋に自分が使うウキだけ作っている人もいますが、やっぱりお小遣い稼ぎしている人多いと思うんですよ。手数料等はとるつもりはないので、売買は「自己責任」でお願いしたいです。でもそういうわけにはいかないだろうなあ。「駐車場内の事故にはいっさい責任を負いません」って立て看板をよく見ますが、実際は逃げられないって聞きますし。ヤフーのオークションもいつも探めてますしねえ…。原則として登録ユーザは自分で更新してもらいますので、FTPを許可します。詳細はホームページを見て下さい。って、まだ完成してないんだ…。参加希望の方やアイデア等ある方は、下記まで御連絡下さい。すぐ返事が出来る保証もありませんし、いつ本格スタートするのかわかりませんが、よろしかったらどうぞ。

メールアドレス: sampei@jisaku-jien.org
URL(作成中): http://www.jisaku-jien.org/

「自作自演」ニュース!

※アニキ、忙しいくせに何また店広げてんですかあ! …しかし実は里も、当社ホームページの製作を江成にお願いしたばかりなのだった…(詳細は次号にて!) by 里ちん

へら鮎釣りの楽しさを追究し続ける...

へら鮎

Monthly fishing magazine herabuna

No.464
2004 Aug 8

夏野釣り 全開!

3カ月連続
夏の緊急特別企画

桜井吞舟：オカシ釣りの神髓Ⅱ

夏の千代田湖で、名人大いに語る!

夏野釣り全開連載陣!

- 石井旭舟【へらぶな浪漫街道】
四国の雄、鹿野川湖に巨べらを求めて
- 小池忠教【激闘の軌跡】
第5戦 西湖&精進湖
- 戸張 誠【野釣り道場】
西湖・桑留比の藻面
- 杉山達也【SPLASH BEATⅢ】
日曜日、フル満タンの間瀬湖!
- 田辺哲男【それってどーゆーことよ?】
西田一知登場! 深宙両ダンゴ in 円良田湖!
- 吉川ひとみ【へらってヤバイわっ!】
雨女復活!? 豪雨の三島湖でがんばる!

●今シーズン最重要湖で豪快に釣りまくる!

生井澤 聡 in 芦ノ湖

●孤高の野釣り5枚リミット制巨べらトーナメント2004第2戦は、とんでもないことに!

NEO-HERA INVITATIONAL in 芦ノ湖

●ビッグスケールな河口湖で40上の巨べらを狙う!

棚網 久 in 河口湖

渾身のトーナメントレポート連発!

小林恭之、
パリバスカップV!
田中雅司、
3代目チヨウチン王に!

マルキューチヨウチン王座決定戦
パリバスカップへらトーナメント2004
ダイワペアバトル2004
シマノ浅ダナチヨウチン一本勝負!!
HERA-1GP 全国へらブナ釣り選手権大会

昭和41年5月4日第3種郵便物認可
第39巻第8号(毎月1回1日発行)
平成16年8月1日発行

ペレットに しろ 白べら

● 白べら(スライダーチャック袋)



つれるエサづくり一筋
丸 マルキユー
http://www.marukyu.com/

本社 桶川工場 埼玉県桶川市赤堀 2-4 〒363-8509
TEL: (048) 728-0909(代) FAX: (048) 728-3909
大阪支店 大阪府堺市東区南町 12-14 〒572-0811
TEL: (072) 824-0909(代) FAX: (072) 825-0909

軽く、バラけて
ペレットと相性抜群。
「白べら」は、集魚材の入っていない、純粋な白い魅エサ。軽く、バラけるから、ペレット系のエサとのブレンドに効果抜群。ペレット特有のネバリや経時変化を抑えて、練つても練つても、バラケ性が失われないエサに仕上がります。ふっくらとした感触が得られて、手へのベト付き感もなし。丸めやすさも抜群です。エサづくりの始めにブレンドするのはもちろん、手直しとしてネバリの出たしまったエサに加えても、サラッとしたタッチが取り戻せます。

鬼に 金棒

ペレットエサは
まだまだ凄くなる。
ペレットに必要なもの。
それは
ペレットの効果を
十二分に引き出してくれる
理想的な魅エサ。
ネバリと
重さ。
この2つを
自在にコントロールできたとき
ペレットという鬼は
強力な武器を得たことになる。
鬼に金棒。
ペレットに「白べら」。
この夏、必携のブレンドエサです。

四国営業所 香川県坂出市西大浜北 3-4-33 〒762-0053
TEL: (0877) 44-0909(代) FAX: (0877) 44-3909
九州営業所 佐賀県鳥栖市姫方町 341-8 〒841-0023
TEL: (0942) 82-0909(代) FAX: (0942) 83-0909

釣り場でエサに困ったら
iモード・ホームページ
http://www.marukyu.com/i

